

令和8年度 第一回札幌市文化芸術創造活動支援事業等評価検証委員会 議事概要

1 日 時

令和8年8月6日（木） 14時00分から16時15分まで

2 出席者

(1) 委員

- ・ 本田 修 （元国際交流基金文化事業部長）
- ・ 右谷 誠 （札幌市芸術文化財団市民交流プラザ事業部 センター事業部長）
- ・ 山本 麻友美 （公益財団法人京都市芸術文化協会創造連携推進グループディレクター）
- ・ 吉本 光宏 （合同会社文化commons研究所代表）
- ・ 若林 朋子 （プロジェクト・コーディネーター、立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授）

(2) 事務局

- ・ 成澤 元宏 （市民文化局文化部長）
- ・ 犬飼 やよい （市民文化局文化部事業調整担当課長）
- ・ 大沼 孝彰 （市民文化局文化部文化振興課調整担当係長）
- ・ 小川 桜 （市民文化局文化部文化振興課振興係）

3 議 題

- (1) 委員長・副委員長の選出
- (2) 令和8年度検証委員会の進め方について
- (3) 令和8年度札幌市文化芸術創造活動支援事業採択事業について
- (4) 提言書作成に向けて
- (5) ワーキンググループについて

4 議 事

◎ 開会

事務局（犬飼事業調整担当課長）の司会進行により、委員全員の出席を確認した。

(1) 委員長・副委員長の選任

- 全委員の承認を得て、事務局から委員長の選任案を提案することとなった。
- 事務局から、本田委員を委員長、吉本委員を副委員長とする選任案が提案され、全委員から承認を受けた（以後、委員長による司会進行）。

(2) 令和8年度検証委員会の進め方について

- 事務局から本委員会の目的と今後の進め方について、年度内に札幌市宛ての提言書を取りまとめることから逆算して全5回の委員会を開催し、段階的に議論を深めるスケジュールについて全委員から承認を受けた。

(3) 令和8年度札幌市文化芸術創造活動支援事業採択事業について

【説明概要】

- 事務局から、令和8年度の採択事業とその現況について説明を行った。

【主な意見】

- 今年度の採択事業においては、企業参画や過去事業の発展形など、多様な広がりが見られる点が評価できる。
- 前年度と比較して申請件数が減少した要因について、広報不足の懸念や、「社会連携」区分の申請ハードルの高さがあるのでは。
- 一部の公募事業において、選考委員がSNS等で事前に関与を公表したことに関して、事前公表のメリット・デメリットの整理が必要
- 地域において中間支援「組織」を増やすことには限界があるが、本実証実験においては「中間支援人材（個人）」の育成・創出に対して一定の効果が見られる。

(4) 提言書作成に向けて

【説明概要】

- 札幌市の文化施策の現況を確認し、将来目指すべきアーツカウンシルの機能や構造についてご議論いただきたい旨説明を行った。

【主な意見】

- 市内で実施されている文化芸術助成について、札幌市所管以外のものも含めて整理すると、札幌のアーツカウンシルを考える上で大変参考になる。
- 公的資金だけに依存しない基盤の整備が必要。アーツカウンシルの機能や長期目標に組み込むべき。
- 札幌市には民間主導で確立された優れた事業が多数存在する。これらに対し強権的な統合や予算の再配分を行うのではなく、それぞれの自立性を尊重しつつ横断的に「交わる場」を創出し、共通課題を調整・補完し合うネットワーク型の中間支援機能が理想。
- アーツカウンシルの実装にあたっては、まずはスモールスタートで現実的に対応しつつも、委員会においては5年程度の中期的なビジョンや長期的な文化支援の理想形（未来図）を含めた、将来の広範な可能性を視野に入れた提言書を作成する。

(5) ワーキンググループについて

【説明概要】

- より現場の実態に即した意見を聴取するため、令和8年10月より「ワーキンググループ（WG）」を設置して実践的な意見交換を開始する。

【閉会】